

青少年の体力向上に役立つ 地域連動型のスポーツイベント

実施背景

四国大学と強化指定スポーツ部、それを支援する団体、イーグレッツサポーターズクラブ、自治体、民間企業、各スポーツ団体が連携し、地域住民と大学スポーツを繋げるべく、大学スポーツ資源を活用した地域連携型プロジェクト「体力UP、地域力UPプロジェクト」を開催した。

目的(地域課題の解決など)

徳島県の地域課題である「青少年の体力低下」の解決を目的とした「スポーツ体験型イベント」を実施し、子どもたちにスポーツの魅力を伝え、親しんでもらった。また、地域活性化のための大学スポーツの振興とスポーツ促進人材の育成を目的とした「大学フットボール対抗戦」「大人のサッカー教室」を実施した。

取り組んだ具体的な施策

ラグビー教室

「ラグビー教室」は、徳島県ラグビーフットボール協会の講師が指導し、四国大学女子ラグビー部員がその補助を行い、令和4年11月25日に実施した。徳島県内の小学3年生から中学3年生までのラグビー経験者の計10名が参加した。アンケートでは参加者全員が「楽しかった」、「また次回もあれば参加したい」とポジティブな感想を寄せた。

大人のサッカー教室

「大人のサッカー教室」は、Jクラブチーム徳島ヴォルティスの講師が指導を務め、四国大学女子サッカー部員がその補助を行い、令和5年1月21日に実施した。健康の保持増進、地域コミュニティの醸成を目的に、一般成人88名が参加した。実施後の事後アンケートでは、96%の参加者が「このようなイベントは地域の活性化に繋がる」と回答し、また、90%が「四国大学スポーツを今後も応援したい」という前向きな感想を寄せた。

第2回イーグレッツサポーターズフェスティバル

「第2回イーグレッツサポーターズフェスティバル」は四国大学体育館及び日ノ上運動場を会場とし、令和4年12月3日に実施した。大人と子どもを含む102名が参加し、各部員が参加者との交流を深めるとともに、大学スポーツ資源を身近に感じてもらうことを目的に「バレーボール体験」、「弓道体験」、「ソフトテニス体験」及び「陸上競技体験」を行った。アンケートでは「スポーツに触れ合えるきっかけになった」、「やった事のないスポーツを体験して楽しかった」などの意見が多く寄せられた。

四国大学ソフトテニスクリニック

また、同日午後には、ソフトテニスの経験者を対象に「四国大学ソフトテニスクリニック」を実施した。ヨネックス株式会社の実業団選手が講師を務め、ソフトテニス部員がその補助を行い、県内の中学生66名が参加した。



大学フットボール対抗戦

「大学フットボール対抗戦」は、四国大学しらさぎ球技場に追手門学院大学を招き、令和4年12月10日に実施した。2019年から始まった3回目の定期戦で女子サッカーと女子ラグビーの交流戦を隔年で両校を会場に実施している。追手門学院大学からは総勢41名の女子ラグビー部及び女子サッカー部が参加し、2大学による対抗戦を行った。学生が司会進行や演出など運営に携わり、それぞれの愛校心の醸成や大学間の交流に繋げることができた。

結果と今後の展望

同事業では外部評価委員会を組織しており、委員からの評価を活用することで事業の検証・改善を行い、今後の発展に結び付けていく方法をとっている。令和5年1月25日に開催された外部評価委員会では、計画性、組織力、実行力などにおいて、おおむね高評価をいただいた。同事業の今後について、アスリートが最大限のパフォーマンスを発揮するための環境および支援(アントラージュ)に言及し、「アントラージュ(教育)をもっと意識した事業を考えていくことも大切なのではと考える」(徳島大学准教授中塚健太郎・同委員会委員長)とコメントがあった。また本事業で取り組んだそれぞれのイベントの参加者には事前・事後アンケートを取り、イベントの効果測定を行った。これらの結果は、次年度以降の活動の改善材料として活用する。

協力・連携団体

- ・イーグレッツサポーターズクラブ
- ・徳島県ラグビーフットボール協会
- ・徳島ヴォルティス株式会社
- ・ヨネックス株式会社
- ・徳島県スポーツ振興課



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!



スポーツPAOTで「スポーツイベントの環境をデザインできる地域の人材」を育成する

実施背景

千葉県の市民と大学生、自治体職員、プロスポーツスタッフが協働・連携しながら、千葉県で開催されるプロスポーツのホームゲームをより楽しく、安全で、快適なイベントにするための改善活動「スポーツPAOT」を実施した。

目的(地域課題の解決など)

同事業は「スポーツPAOT」という手法をスポーツへ導入。スポーツに関心のない子どもたちや、スポーツイベントに興味のなかった市民や大学生に「みるスポーツ」と「支えるスポーツ」の楽しさを伝え、「スポーツイベントの環境をデザインできる地域の人材」を育成することを目標にした。

取り組んだ具体的な施策

本事業は、職場環境をよりよく改善するために国際労働機関(ILO)が開発した「参加型改善(PAOT)」を世界で初めてスポーツイベントの環境改善に応用した。PAOTの1つ目の特徴は、その場所に集まる全ての人たちが協働で環境改善に取り組む「参加型(共創型)」である。2つ目の特徴は、その場所の問題点やリスクを指摘するのではなく(リスク評価型)、その場所をより良くするための具体的なアイデアを提言する「改善提案型」である。3つ目の特徴は、その場所の良い所(良好事例)だけに目を向けて、良好事例をさらに良くするアイデアを改善案とみなす「ポジティブ・アプローチ」にある。「スポーツPAOT」のプログラムはフィールドワーク(1日目)とグループワーク(2日目)で構成した。



スポーツPAOT

スポーツPAOTは、千葉県の自治体とプロスポーツチームの協力のもと、令和4年9月から令和5年1月にかけて実施した。1日目のフィールドワークでは、プロスポーツのホームゲームを観戦しながら、①安全・安心の確保(Safe)、②スムーズな移動(Move)、③コミュニケーション(Info)、④人に優しい施設整備(Link)、⑤環境保護への配慮(Environment)のテーマごとに(SMILE領域)、イベント会場の良好事例の写真を収集した。千葉県をホームタウンとするジェフユナイテッド市原・千葉(2試合)、千葉ジェッツ(3試合)、クボタスピアーズ(2試合)の7試合を通して、294名の市民と学生がフィールドワークに参加し、2951枚の良好事例写真を収集した。

2日目のグループワークは、市民と学生が順天堂大学の教室に集合し、SMILE領域ごとに小数グループを編成した。グループは多様性を高めるために中学生以上の市民と大学生の混成とした。小学生のグループには、子ども向けのプログラムを用意した。グループワークでは、自分たちが集めた良好事例写真のベスト3を選出し、それらのさらなる改善案を検討して、プロスポーツチームへの提言を行った。5日間、6会場に分かれて行ったグループワークには、206名の市民と学生が参加し、47グループで合計151の改善案をプロスポーツチームに提言した。PAOTでは、短時間・低コストで実現できるアイデアを改善とみなすため、「地面に描かれている案内表示のチョークの文字を太くする」、「選手カードをシールにする」、「車いす席のテーブルにドリンクホルダーを設置する」などの実践的なアイデアが提言された。いくつかの改善案はプロスポーツチームに採用され、翌週のホームゲームから実践された。



結果と今後の展望

本事業はプロスポーツの低関心層を参加者として巻き込むことに成功した(当該チームの観戦経験者は5~11%)。事前・事後アンケートでは、スポーツPAOTによってプロスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツ、大学の学び(PAOT)への関心度が有意に向上した。事後インタビューでは、「スポーツの楽しみが広がった」、「今後の運営に活かせる気付きがあった」などの声が聞かれた。今後はスポーツPAOTの普及と「するスポーツ」への応用を展開する。

協力・連携団体

- ・千葉県 ・佐倉市
- ・印西市 ・酒々井町
- ・クボタスピアーズ船橋・東京ベイ
- ・ジェフユナイテッド市原・千葉
- ・千葉ジェッツ



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!

スクールと人材バンクで支える 運動部活動の地域移行

実施背景

スポーツ庁の有識者会議から令和4年6月に示された「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」で、令和5年度から3年間をかけて段階的に休日から運動部活動を地域に移行する事が示された。現状の部活動が抱える課題の解決にもつなげる、円滑な部活動の地域移行の方法を模索する必要がある。

目的(地域課題の解決など)

運動部活動の地域移行を学校現場と地域が連携して実現する上で課題となることは指導者の量と質の確保、そして地域社会への負担をどのように分担していくかなどの包括的な仕組みである。宮城県内、特に仙南地域を対象とし、同学の多様なスポーツ資源を活用しながらこの課題に取り組む。

取り組んだ具体的な施策

同事業は、新しい部活動に対する意識醸成のための「シンポジウム」、同大学の在学学生、卒業生を対象とした「指導者バンクシステム」の構築、指導者の資質・能力の確認、競技力向上のための中学生を対象とした「スクール」を開催することによって、運動部活動の地域移行を円滑にするための知見を獲得する取り組みである。



シンポジウム

シンポジウムは令和4年12月10日に「部活動の地域移行を考える」をテーマとして開催された。58名の参加者のうち、教育委員会関係者や学校教員が多くを占めた。同シンポジウムでは、意識の変容を調査するために、事前と事後アンケートをとって比較している。結果を見てみると、申込受付時には「部活動は中学校で続けるべき」に13%ほどの回答があったが、シンポジウム終了後のアンケートにおいては同設問への回答数は半減した。また、費用面では「地域移行必要経費は保護者や生徒ではなく自治体や国で補助すべき」が4.9%増加し、「高い費用が必要なら部活動ができなくても仕方ない」が5.7%減少した。

宮城スポーツ指導者人材バンク

部活動支援における指導者の確保問題については、体育大学である同大学では、専門的知識を持つ在学学生、卒業生で高い指導意欲を持つ人材資源と自治体のマッチングを目指す「宮城スポーツ指導者人材バンク」を構築した。本事業期間内の実践は、ウェブサイトの立ち上げを実現した。現在は地域の部活動指導に携わりたい在学学生や今年度卒業生を対象に登録を進めている。

拠点型競技別スクール

令和4年9月から11月にかけて計6回開催された仙台大学「拠点型競技別スクール」では、体育大学のスポーツ資源を活かした競技力向上指導が行われた。仙台大学を拠点とし、中学生が参加する方式で実施された。参加した中学生に中学校で部活動がなくなったらどうするかをアンケート調査したところ、46%は「遠くてもスポーツのスクールに通う」、33%は「地域のスポーツ少年団に入る」とし、20%が「中学校でできないならやらなくてもいい」を選択した(2%はその他を選択)。保護者のアンケート結果では同選択肢で「遠くても通う」が30%、「地域のスポーツ少年団」が57%と、できれば地域で留めて欲しいが子どもにはスポーツを続けさせたい、という思いも垣間見られた。

結果と今後の展望

「宮城スポーツ指導者人材バンク」では、登録者の学生にコーチングのための行動・判断力を測定する「SCCOT(Sports Coaching Competency Test)」の受検を勧めるとともに、次年度以降には独自の指導者養成カリキュラム構築について検討する予定だ。「拠点型競技別スクール」では、仙台大学へ来学しなければならないため、参加者層はスポーツへの意識の高い生徒・家庭と想定される。学校での部活動がなくなった場合に、生徒たちがスポーツに参加する意識と機会に格差が生じる可能性もあり、是正のための施策も検討する必要がある。

協力・連携団体

- ・ 宮城県教育委員会
- ・ 仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!

氷都・八戸における次世代育成と食による地域活性化プログラム

実施背景

子どもたちの基礎体力を高めるために必要なことは、スポーツと食の意識の高い地域の基盤である。本事業では、スポーツと食のイベントを通して地域活性化を行うプログラムを実施した。

目的(地域課題の解決など)

子どもたちの基礎体力の向上、スポーツへの興味関心を高めること、そして地域全体で次世代を育成するための基盤の醸成、ならびに地域におけるスポーツ関連団体の活動の刺激を目的として事業を行った。

スポーツ栄養・食育講座

令和5年1月19日に実施した「スポーツ栄養・食育講座」は、「次世代育成プログラム」におけるスポーツ体験講座受講中の子どもの保護者らを対象として行った。健康な身体を作る栄養素にはどんなものがあるのか、適切な食事の摂り方とはどのようなものかを学ぶ「アスリートのためのスポーツ栄養・食育講座」を開催した。同講座は「八戸日本料理業芽生会」と連携し、座学の他、実際の調理法や日々子どもたちの健やかな成長のための工夫、注意点などについて実践的な学びを提供した。

結果と今後の展望

事業開始時と終了時の参加者へのアンケート回答結果より事業の結果を評価した。体験前後におけるマルチスポーツに対する興味関心度は「非常に高まった」が+45.9ポイントだった。また、プログラムの満足度については「非常に高まった」と「やや高まった」を合わせると92.5%と参加者の満足度が高い結果を得た。次年度以降、追跡調査を実施して、興味関心度や理解度の結果を得る予定としている。

取り組んだ具体的な施策

次世代育成プログラム

「次世代育成プログラム」は、令和4年11月から令和5年1月にかけて行われたスポーツ体験イベントである。子どもたちに様々なスポーツの体験の機会を提供することで、基礎的身体能力、スポーツを楽しむ心、多様なスポーツへの興味・関心を高めることを狙いとする。実施されたスポー

ツは6種目で、内訳はバスケットボール体験(3回実施)、ラグビー体験(3回実施)、陸上体験(3回実施)、3X3体験教室(3回実施)、アイスホッケー体験(3回実施)、スピードスケート体験(2回実施)である。また、アイスホッケーと3X3はプロチームから講師を迎えて実施した。

次世代育成と食による地域活性化懇話会

「次世代育成と食による地域活性化懇話会」は令和4年10月31日に実施され、連携協力体制にある八戸市やスポーツコミッション、料理業等、地域の関係団体とのスポーツを切り口とした地域活性化をテーマとした。大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業についての説明、マルチスポーツ体験の開催にあたっての意見交換、講師協力要請等などが行われた。今後は「スポーツによる地域活性化懇話会」とし、スポーツコミッションと連携し、スポーツを軸として様々な地域課題解決に向けての意見交換等を行うこととし、理解を得られた。

協力・連携団体

- ・ 八戸市(スポーツ振興課、まちづくり文化スポーツ部)
- ・ 八戸市スポーツ協会
- ・ 八戸スポーツコミッション
- ・ 青森県スケート連盟
- ・ 青森県アイスホッケー連盟
- ・ 東北アイスホッケークラブ株式会社/東北フリーブレイズ
- ・ 株式会社八戸DIME
- ・ 八戸日本料理業 芽生会



担当者の声など詳細は事業MOVIEをチェック!

生涯にわたるスポーツ習慣・文化を 地域に根付かせる事業を展開

実施背景

びわこ成蹊スポーツ大学の研究資源や施設環境を活用し、子どもから高齢者までの全世代を対象とし、スポーツに関係する社会課題の解決に取り組んだ。

目的(地域課題の解決など)

同事業では、全国的な課題でもある子どもたちの運動離れの是正、中学生以降の世代に向けた新しいスポーツの価値を提供すること、そして働き盛り世代・子育て世代やリタイア後のシニア世代への運動機会の増加を目的として実施された。生涯にわたるスポーツ習慣・文化を地域に根付かせることを長期目標としている。

取り組んだ具体的な施策

キッズプログラム

子どもたちの運動離れの是正のための事業として「キッズプログラム」を実施した。プログラムのひとつは、幼稚園・保育園・子ども園への「巡回コーチング」。子ども世代における「運動習慣」を楽しみの中から創り出すことを目的に、4歳児・5歳児(年中・年長)の子どもを対象としている。もうひとつは、4歳児(年中)から小学3年生までの子どもを対象に、運動あそびを体験する「キッズフェスティバル」を開催。キッズフェスティバルは、スポーツの楽しさを伝える良い機会であるため、今後も実施の継続を目指す。



ASE活動

中学生以降の世代に向けた新しいスポーツの価値提供事業として、「ASE活動」の実施を行った。ASE活動とは「Action Socialization Experience」の略称で、一人では解決できない肉体的・精神的課題に対し、メンバー同士で能力を出し合い、協力し合いながら、課題を解決するプログラムを指す。ASE活動には計738名が参加した。

ASS活動の設立

パフォーマンスを科学的測定によって評価することで、新たなスポーツの価値を構築する施設「ASS(Athlete Support Station)」を新たに設立。無酸素性パワー測定や有酸素性パフォーマンス測定及び体成分分析装置を用いたのフィジカル測定や、GPSによる動作分析を実施できる。ASSでの体力測定には高校生を含む計186名が参加した。



部活動指導の学生派遣

学校における働き方改革に関する総合的な方策が掲げられる中、部活動指導の外部委託が視野に入っている。そこで同事業では、びわこ成蹊スポーツ大学から学生を指導者として派遣し、部活動指導の一部を担当するという試みを行った。京都市内中学校への部活動指導の派遣者数は32名であり、学生にとって過負担にならず、地域貢献に直結できるような活動に参画できるというスキームを構築した。

公開講座の開講

働き盛り世代・子育て世代やリタイア後のシニア世代への運動機会の創出事業として、「公開講座の開講」を行い、楽しくスポーツに挑戦する機会を提供するとともに、健康に年を重ねるためのマインドセットを提供した。滋賀県の豊かな自然資源を生かしたストックウォーキング教室には、計11名が参加した。

文化講演会の開催

継続したスポーツへの興味関心の涵養、意識啓発をし、健康に年を重ねるための契機となる「文化講演会の開催」を開催し、計465名が参加した。

滋賀レイクスサポーター活動

「滋賀レイクスサポーター活動」を実施し、187名が参加した。地元にあるプロスポーツチームの応援を通じて、スポーツへの興味を育むとともに、地域密着型の応援文化の醸成及び地域の振興に繋げることに貢献する活動である。



結果と今後の展望

アンケート調査では、すべての事業において、概ね好意的な評価を獲得している。課題としては、中学生以降の世代に向けた新しいスポーツの価値提供事業におけるASSにおいてはデータを個人やチームが的確に活用するのは難しいという現状があり、フィードバックの方法などを検証する必要があることが示唆された。また、働き盛り世代・子育て世代やリタイア後のシニア世代への運動機会の創出事業における公開講座では平日開講のため参加者の年齢層に偏りが出てしまったことなどが課題としてあがった。

協力・連携団体

- ・ 滋賀県
- ・ 大津市
- ・ 草津市
- ・ 甲賀市
- ・ 守山市
- ・ 長浜市
- ・ 高島市教育委員会
- ・ 京都市教育委員会
- ・ 株式会社滋賀レイクスターズ



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!

多様性を受け入れる事業構成で、スポーツ参画人口の拡大と機会や場の創出に貢献

実施背景

人口約162万人の福岡市において、スポーツ参画人口の拡大、スポーツによる健康で活力溢れるまちづくりに貢献することを掲げ、「福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム」(共同体)を創設した。福岡大学がハブの役割を果たし、自治体(6団体)、企業、地元スポーツチームと連携し、関連事業を展開した。

目的(地域課題の解決など)

スポーツ参画人口の拡大と機会や場の創出に貢献することを目的とする。子ども向けに、体力向上策の推進、小学校体育授業支援を行い、社会人・シニア層へは運動機会を創出。豊かな大学スポーツ資源(施設・指導者・学生)の有効活用による福岡市スポーツ推進計画の実現にも寄与することを目的としている。

取り組んだ具体的な施策

スポーツ参画人口の拡大と機会や場の創出を行うべく実施された多様性に富んだ事業は小・中学生を含む子どもから、社会人、中高年、さらに障がい者スポーツにもおよんだ。

学校教育スポーツ事業

学校教育スポーツ事業として、令和4年11月15日から12月1日にかけて「小学校体育授業支援」が行われた。小学校5年生を対象として各6回の授業支援を行い、その効果を唾液によるストレス度テスト、反応速度テストなどで効果検証を行った。結果として、体育授業への介入によって、子どものストレス値が約15%減少、子どもの抑うつが約15%減少、子どもの疲労が約20%減少するなどの成果を上げることができた。

社会人スポーツに関する事業

また、社会人スポーツに関する事業では「楽しく学ぼう!大人のラグビー体験教室」を令和4年10月7日より毎週金曜日、計10回を実施。元日本代表選手などが講師を務め、初心者でも、女性でも楽しめるプログラムを実施した。全国的にも珍しい大人向けのラグビー教室でもあったことから、延べ参加者は約500名におよんだ。



中高年健康づくりに関する事業

中高年健康づくりに関する事業では、「カラダづくり講座」を令和4年10月8日および10月23日に実施。「スポーツライフを楽しく過ごすためのカラダづくり」についての講話と、カラダづくりの基礎となるトレーニング・コンディショニング方法の実践を行った。10代から80代までの幅広い年代が参加し、参加延べ人数は約90名となった。

障がい者スポーツ事業として、「ふれあいスポーツフェスタ(サッカー・バスケ)」を開催した。サッカーを種目とした回では、第15回九州・四国スキャンピオカップ、ブラインドサッカー体験会を実施。約250名が参加し、障がい者スポーツの理解を深め、障がいの有無に関係なく、共にスポーツを楽しめる機会を創出した。

地元スポーツ団体とのコラボレーション事業

地元スポーツ団体とのコラボレーション事業として、福岡ソフトバンクホークス株式会社の協力のもと子ども向け「福岡大学野球教室」を実施。福岡大学総合体育館にて福岡大学野球部員45名とソフトバンクホークスのOB3名による野球教室を開催した。プロ野球OB選手との交流は参加者だけでなく、地元野球部にとっても非常に貴重な交流の場となった。



結果と今後の展望

主催事業実施数は合計で10事業、参加延べ人数は約1860人となった。(8月以降、学外者の本学内のスポーツ交流実績1万5千人超)参加者へのアンケート調査では満足度が100%、スポーツ活動への肯定感は99%超、行動変容率も98%超と非常に高水準であった。これらの数字から、スポーツ参画人口の拡大と機会や場の創出に貢献する目標を十分に達成していると言えるだろう。また、今後大学スポーツ施設のIT管理による可視化が進めば、更なる施設の有効活用が可能となり、大学と参画団体との連携事業が進展することが見込める。

協力・連携団体

- 福岡市市民局 スポーツ推進部
- 福岡市教育委員会
- 福祉局障がい者部
- 福岡市スポーツ協会
- 福岡市障がい者スポーツ協会
- 福岡市立障がい者スポーツセンター
- ミズノ株式会社
- 麒麟ビバレッジ株式会社
- トゥイプロモーション
- アビスパ福岡株式会社
- ライジングゼファー福岡株式会社
- 九州電力キューデンヴォルテクス
- 株式会社福岡アンクラス



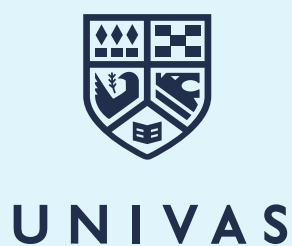
担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック!

▶ THANKS

謝辞

本書の作成にあたり、
以下の大学の皆様にご協力賜りました。
心よりお礼申し上げます。

愛知東邦大学 / 青山学院大学 / 桜美林大学
鹿屋体育大学 / 環太平洋大学 / 神戸国際大学
国際武道大学 / 四国大学 / 順天堂大学
仙台大学 / 八戸学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学 / 福岡大学



本事業は、スポーツ庁委託事業
「令和4年度感動する大学スポーツ総合支援事業」によるものです。

発行元 | 一般社団法人 大学スポーツ協会

UNIVAS2T_06MAR2023



| 本事業のWEB |
| ページはコチラ |